



# 三原市長 定例記者会見

令和3年3月23日（火曜日）13:30～

- 1 令和3年4月1日付け人事異動・組織改編について



# 三原市民と市長の「みらいトーク」 実施状況

- **目的** 地域や団体の活動の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の充実を図ること
- **開催回数** 6回（令和2年10月から令和3年3月まで毎月開催）
- **参加者数** 39名（男性：15名，女性24名）

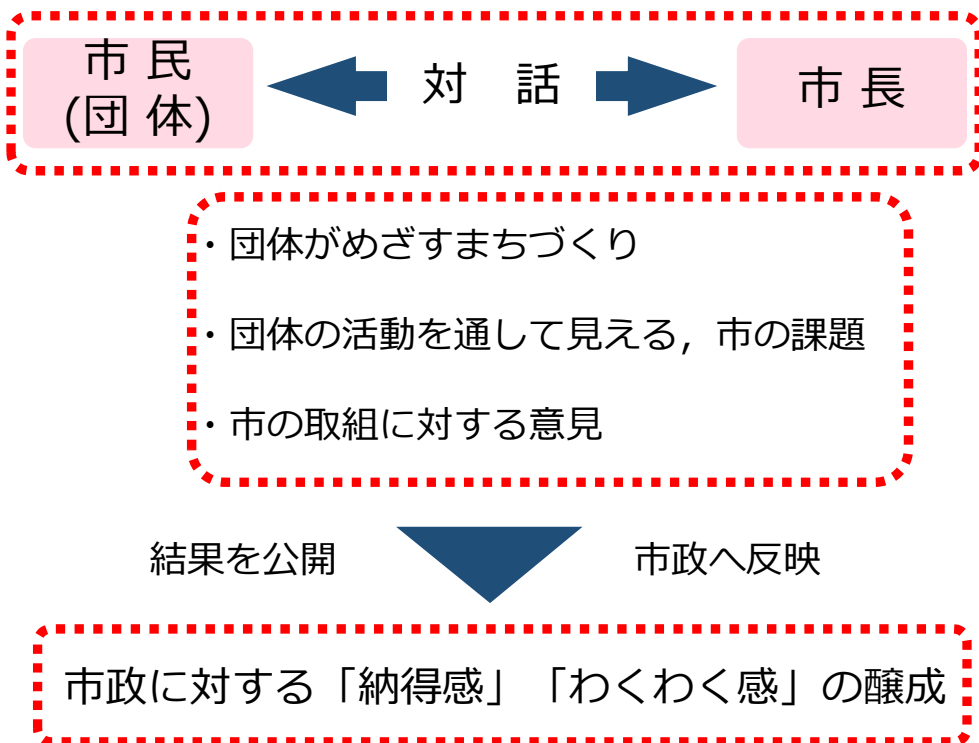
回	開催日	団体名	参加者数
1	10月12日	はっちはっち	7名
2	11月9日	三原商栄会連合会	7名
3	12月21日	さぎしまを愛するボランティアガイド	7名
4	1月18日	子育てカフェ	5名
5	2月19日	障害のある人とそのご家族	7名
6	3月17日	農業者	6名



第1回 はっちはっち（10月12日）

※ 様々な分野のご意見を聴けるよう、市が団体(参加者)を選定

# 「みらいトーク」でめざすこと



**筋書きのない対話で, 市民の率直な想いを聴く**

## 課題把握

- ①市民ニーズや, 市が対応しなければならない課題
  - ・市民協働, 教育, 経済, 観光, 子育て, 子育て, 福祉, 交通, 環境, 街区整備 など
- ②市がこれから取り組もうとすることに対するご意見と課題
  - ・デジタル化の推進 ・情報発信の強化

事前にお伝えするのはテーマと進め方だけ  
一切の筋書きなし  
ドキドキしながら得る大切な気づき  
なんとかしたい!

## 「みらいトーク」で寄せられた 市政に関するたくさんのご意見

- 「Facebook「やっさだるマン」のアカウントがあまり更新されておらず、活用されていない。もったいない。」
- 「市政情報は広報誌から得ている。「何かあれば広報誌」という感覚が染みついております、新聞紙と同等の身近さである。」
- 「まちづくりに関わりたい」という希望のある人と団体を繋ぐ仕組みがあると良い。」
- 「市民が三原の良さを知らない、気づいていないので、見つめなおす必要がある。」
- 「療育の大切さや、障害を個性と捉える視点などについて、小さい頃からの教育にも力を入れるべき。」
- 「小学生や中学生と市長が意見交換する場を持ってもらいたい。」



- 「三原港から鷺港へのフェリー発着を維持してもらいたい。航路再編計画で、フェリーが須波港発着になると不便になる。」
- 「公共料金をPayPayで支払えるようにしてもらいたい。」
- 「塔の峰千本桜を地元有志で管理しているが難しくなっている。公園らしく整備し、草刈りや樹木の剪定などの管理を市で行ってほしい。」
- 「運動部しか選択できない中学校では、文化部を新設するか、地域でのボランティア活動を部活動として認めるようにしてほしい。」



## 空き家所有者と活用希望者のマッチング

### <意見>

- 空き家活用希望者へ、空き家バンクよりも多くの情報が届く仕掛けが必要。移住して三原に住もうとする人が、なかなか空き家を見つけられない。
- 田舎に暮らしたいと思っている人に対して「住居は自力で探してください」はハードルが高いので、バックアップが必要。資源があるのにもったいない。

### <対応>

- 令和3年度から移住促進地域連携事業を立ち上げ、地域と一緒に、①移住希望者からの相談対応、②空き家バンク登録物件の掘り起こしに取り組み、空き家活用促進を図る。



# 課題の解決へ

## 聴覚障害のある人への避難所での情報伝達

### <意見>

- 避難所では色々な情報が出されるが、聴覚障害があるとわからない。情報を文字にして見えるようにしてくれる道具があると良い。
- 南海トラフの地震が起きたら避難するが、避難所でバタバタしている時に、声で情報伝達されると私(聴覚障害者)はわからない。

### <対応>

- 令和3年度から、市が優先開設する18避難所へ次の物品を配備する。
- ①コミュニケーション支援ボード (東京IEP研究会制作) 0円  
(参考URL:<https://www.mykokoro.jp/communication-board/>)
  - ②筆談用メモ帳 2千円
  - ③マグネットホワイトボード (シート式) 7万2千円

(配備する避難所)

三原小学校, 第一中学校, 県立尾道商業高等学校, 第二中学校, 宮浦中学校, 田野浦中学校, 須波小学校, 南小学校, 第五中学校, 小泉小学校, 幸崎コミュニティセンター, 本郷小学校, 北方コミュニティセンター, 南方コミュニティセンター, 久井支所(久井保健福祉センター), 大和支所, 旧榎梨小学校(皆来館), 旧和木小学校(ふれあい)



イメージ：コミュニケーション支援ボード

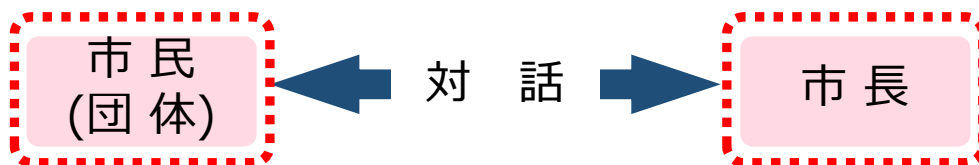


# 「みらいトーク」の今後

## 「筋書きのない対話」スタイルの継続と発展

### Point① 多くの方との対話

- ・市内にはまだまだ多くの団体が活動している。少しでも多くの団体との対話が必要
- ・今後、公募制の導入を検討



- ・団体がめざすまちづくり
- ・団体の活動を通して見える、市の課題
- ・市の取組に対する意見

### Point② 技術向上

- ・対話の内容は、進行役の技量に左右される面がある
- ・より充実した対話の場となるよう、進行等の技術を向上させる

結果を公開

市政へ反映

市政に対する「納得感」「わくわく感」の醸成

### Point③ 「納得感」と「わくわく感」の醸成を実現する市政運営

- ・対話によって得た課題や市民のニーズを的確に汲み取り、タイムリーに市政へ反映させ続ける